

【事業実績】

中核館である砺波郷土資料館は、構成団体の散居村ミュージアム等と連携し、重要有形民俗文化財の民具等を生かした地域と連携した博物館創造事業を実施した。

1 (1) 学校、公民館等と連携した地域文化の担い手育成事業

①昔の農作業体験と米作り体験発表会



5月田植え（ビデオ交流）、7月らち体験（除草）、9月稲刈り・脱穀、10月体験発表会を地区公民館と協働して昔の米作り体験を企画、実施した。昔の農具を使った作業を体験し、現在の機械を使った農業を見学することで、米一粒一粒を大事にする米作りの苦勞を知り、今の農機具の内部に昔の農具の仕組みが生かされていることに気づいていた。

②郷土学習、ふるさと学習、見学（小学校3年、小学校6年）



郷土学習やふるさと学習では、地域の特産や伝統産業、昔の暮らしについて学び、体験する事業を企画、実施した。農具の移り変わりや漆器木地の産地として発展した挽物の見学や体験から伝統の継承を考える機会となった。

特に、ふるさと学習では、14の小学校から見学を受け入れ、どの館でも同様の見学、体験

民具の解説パネルの利用



活動が行えるように調整と準備を行った。また、事前に見学先の担当者と打ち合わせ、学校規模、学習の進め方など各学校の希望に合わせた見学、体験のメニューを準備した。こうしたことから見学児童

の意欲が高く、丁寧にまとめた学習ノートが多かった。また各学校からの事後評価も高く、今後もこれを活かした受け入れ態勢を整える必要がある。

1 (2) 多様な対象者のための学習講座

①季節の展示と民具体験



季節の展示は、季節に応じた民具を選んで展示し、民具の解説や体験活動を行う内容とした。春先に使う農具、

田植え衣装と道具、夏を涼しく過ごす工夫、養蚕道具、収穫の農具、一年の作業を終える「庭じまい」など、米作りを中心とした一年の暮らしの紹介し、季節に応じた暮らしと人々の創意を考えるきっかけになることをねらいとした。特に、昔の生活を知る高齢者だけでなく、様々な年代の来館者に分かる展示、解説の工夫に取り組んできている。さらに若い世代に分かりやすい表現の展示や動画を生かした展示、体験活動の企画が課題となった。（季節の展示は隔月開催、見学者は10月以後の集計 434名）

②民具に触れる（民具を使った体験）

菓子型を使ってクッキー作り

魚を捕えるブツタイ作り

ねかべっつい(粃殻かまど)で赤飯づくり



様々な世代の参観者に民具への関心を高めるために学校の夏季休業、冬季休業中に民具を使ったり、

民具を参考に自作の道具を作ったりする体験活動を企画した。親子参加としたことで若い世代にも好評となった。

③特別展に関連させた「庄川挽物と挽物ワークショップ」



特別展「砺波に生まれた器－庄川に伝わる挽物－」

10月17日～11月22日 入館者462人



ワークショップ(11月8日)

特別展示に合わせた、挽物作業の見学と挽物を使ったワークショップ

1時間1家族を受け入れ、木地を生かしたリース製作体験。

【参加者の感想から】

- ・木によって色や手触りが違っていることに驚いた。
- ・滑らかに均等に削って柔らかな手触りだった。
- ・木くずの手触り、匂いの良いことに大変驚いた。
- ・檜の木の堅さや重さ、強さを感じることができた。
- ・親のアイデアも少し入れてくれて親子で満足。

④図録「若い人に伝えたい砺波地方の昔の米作り」1月～6月

江戸時代から昭和40年代にかけて農具の発達により米作り作業がどう変わってきたかを記録した。馬耕や苗代、田植えの仕方、肥料など農作業がどのように進められてきたのかを古い資料や日課帳、実際に体験した古老の聞き取りなどからまとめている。また小正月の行事ややすんごと(田祭り)など年中行事も取り上げ、暮らしの図鑑的な内容となっている。



学校、教員、参加者の評価

郷土学習、ふるさと学習について

1、見学、体験活動の内容について(見学14校中)

よかった。 12/14 (衣、食、住から重要なものを選んで展示して分かりやすい。学校で取り上げたものを実際に見られて子供たちは満足していた。いろいろ触ったり体験したりするものが整っていた。間隔をとり、安全対策が適切だった。)

おおむねよかった 2/14 (あかりや文房具、かまどなどの種類を多くしてほしい。)

改善、配慮が必要である。 0/14

2、補助資料や解説、会場設定について(見学14校中)

よかった。 9/14 (ものが順序よく展示してあって見やすい。子供の目の高さでよい。体験活動がとても工夫されていて、子供たちがよく話を聞いていた。興味を持って家庭でもいろいろ聞き取りをするようになったなど)

おおむねよかった 5/14 (体験活動の場所を広くする。全部の子供が触れる時間がないので、学校にも貸し出すなどしてほしい) 改善、配慮が必要である。 0/14

1 (3) 他分野との連携、融合による活動

①民具ボランティア養成講座



氷見市博物館や文化財センターの視察を経て、今後の展示室の展示の工夫や広報活動等について様々な提言を出し合った。年代順に展示するだけでなく、実際の使い方を示したり、暮らしの中でどのように使われたかを考えたりする展示が望ましい。今後來館者目線の展示の工夫を考える。

②農民の暮らしに関する古文書講座



参加者の感想

- ・現代文で記載したものがあればより理解できたと思う。
- ・古文書の時代の社会の様子や庶民の暮らしぶりを入れてもらうとより分かりやすくなるのではないかと思う。
- ・当時の庶民の暮らしがわかる文書があれば、さらに読んでみたい。

村の暮らしの文書と出町の町の文書を重ねて読むことで、砺波地方の一般の人々の暮らしの様子を知ることができ、今後も村や町の両方の文書を取り上げてほしいとの要望が強かった。(計4回実施)

③わら細工の製作過程のDVD化と実習

当資料館の資料中で急激に劣化が進んでいるのは藁製品ですが、その製作方法を伝える資料はなく、またかつて製作していた人々もすでにない。そこで収蔵する藁製品の製作方法を類推して実際に製作し、その過程を記録して残して将来の民具再生に生かしたいと考えた。今年度はテンゴの製作過

テンゴの製作過程の記録

米俵の製作実習



程の記録を行った。実習では米俵を製作した。